

「少子化等に関する県民意識調査」の結果概要

I 県民を対象とした調査

(1) 調査の概要

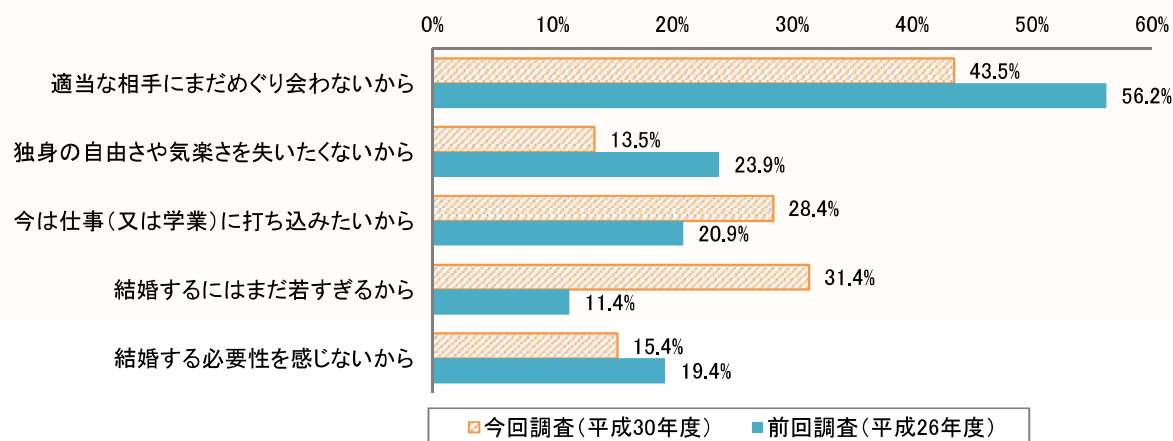
ア 調査期日	平成30年11月
イ 調査地域	鹿児島県内全域
ウ 調査対象者	無作為に抽出した県内在住の18歳以上の男女
エ 調査数	5,000人（一般4,500人 大学生500人）※平成26年度調査と同数
オ 回答数	1,794人（回答率35.9%）※平成26年度調査では2,005人（40.1%）

(2) 主な調査結果

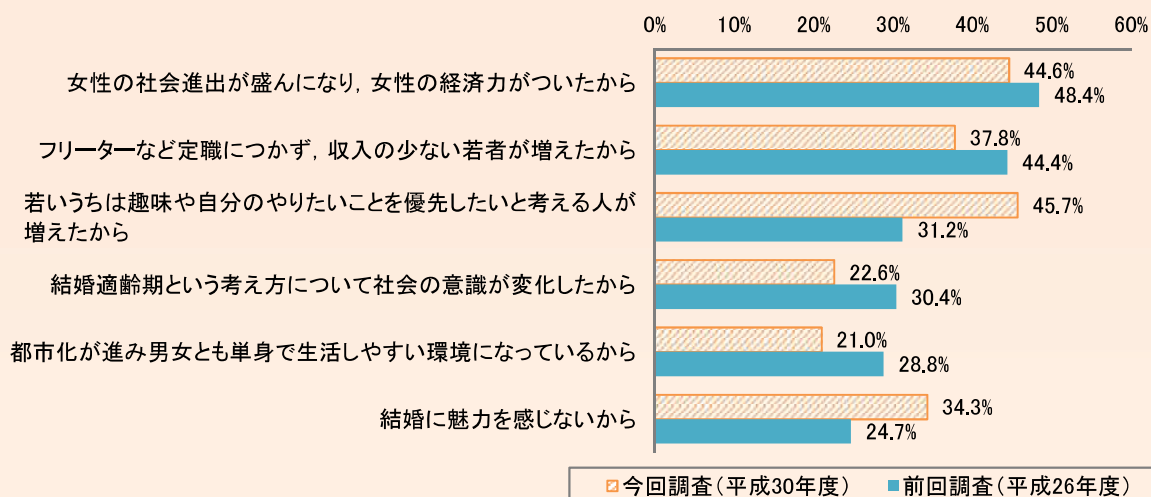
目標項目	現状 (26年度)	調査結果 (30年度)
子育てがしやすくなったと感じる人の割合	7.6%	20.8%
予定している子どもの数が2人以上と考える人の割合	63.1%	74.7%
妊娠・出産、子育てに関する医学的・科学的に正しい知識を理解している人の割合（26年度は調査せず）		
ア 女性の妊娠する力は歳を重ねるにつれて下がっていく	—	94.5%
イ 男性も歳を重ねると精子の数が減る	—	84.9%
仕事と家庭の両立がしやすくなったと考える人の割合	9.8%	15.4%
いずれは結婚しようとする未婚者（40代まで）の割合	70.3%	68.5%
（参考）いずれは結婚しようとする未婚者（全体）の割合	51.2%	66.4%

(3) その他の主な調査結果

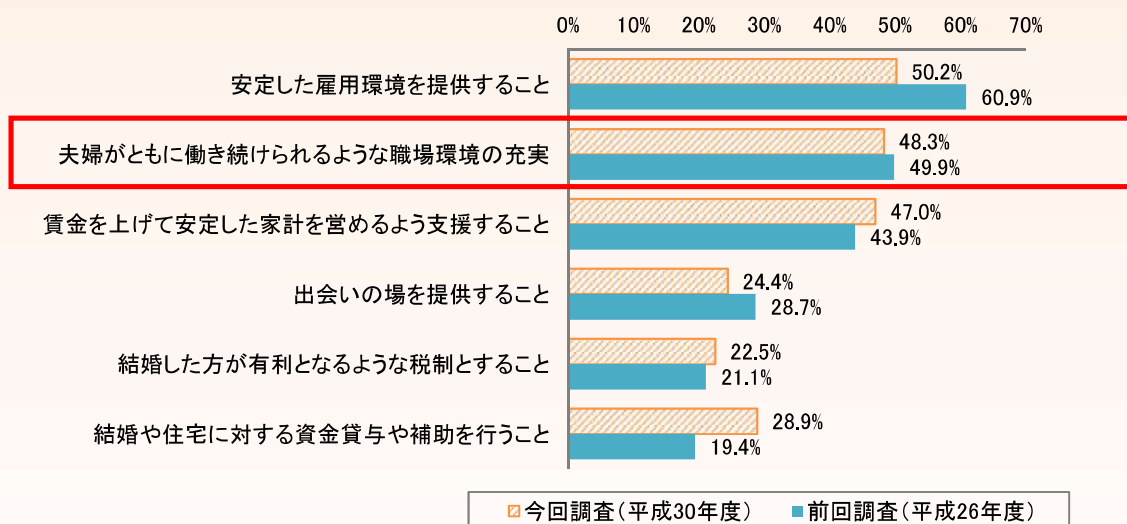
ア 独身でいる理由（複数回答）



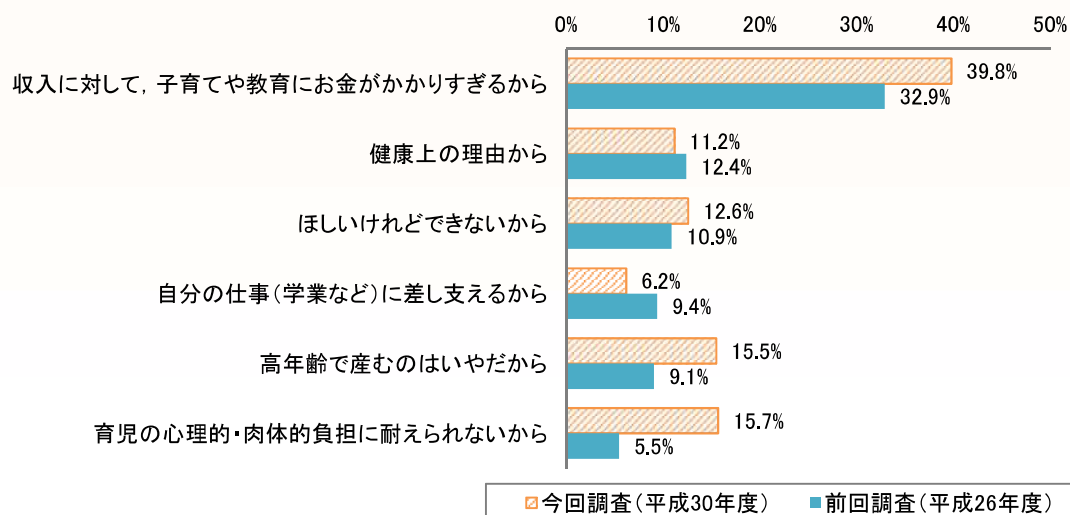
イ 未婚化・晩婚化が進んでいる原因（複数回答）



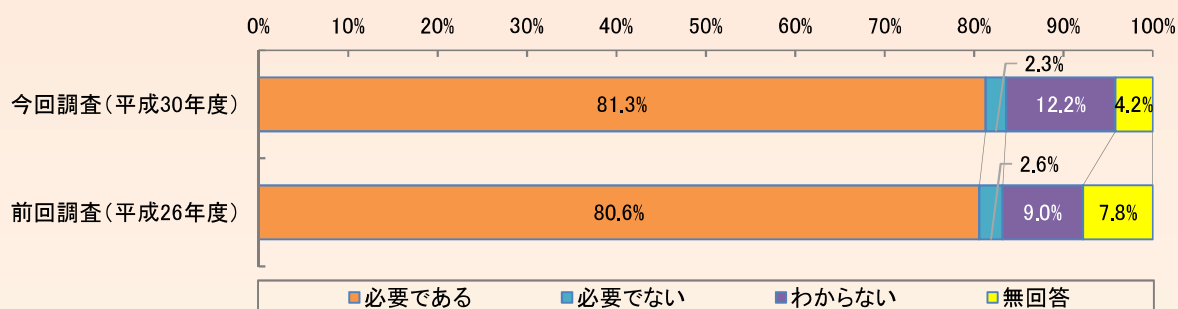
ウ 結婚を希望する人への支援策として重要な施策（複数回答）



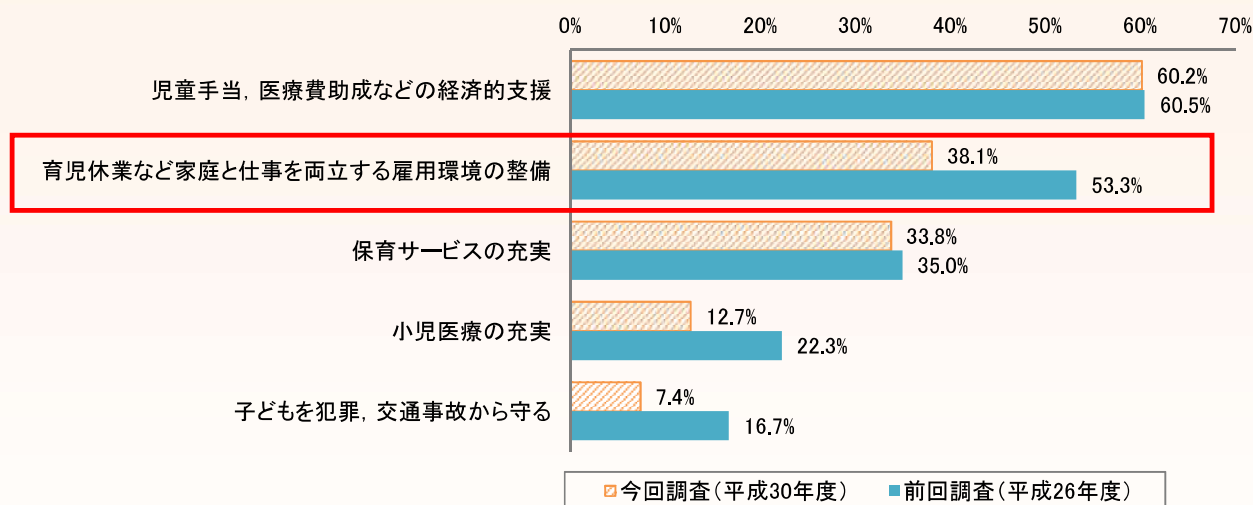
エ 実際の子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由（複数回答）



オ 少子化対策の必要性（単数回答）



カ 子どもを健やかに産み育てるために、国，県，市町村に期待すること（複数回答）



Ⅱ 県内企業を対象とした調査

(1) 調査の概要

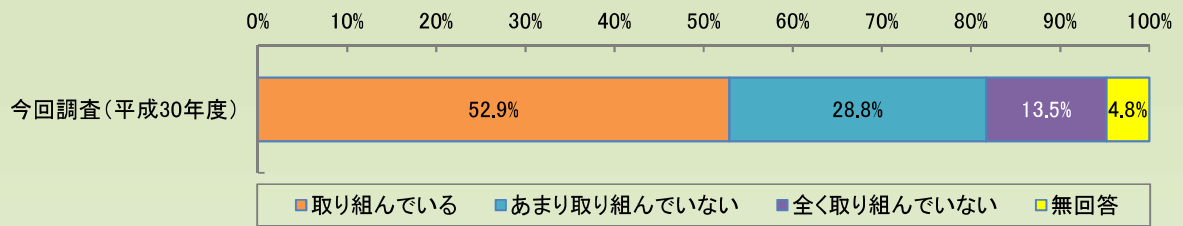
- ア 調査期日 平成30年11月
- イ 調査対象企業 鹿児島県内の一般企業及び子育て応援企業から県が無作為に抽出
- ウ 調査数 200社（一般企業100社，子育て応援企業100社）
- エ 回答数 98社（回答率49.0%）
- オ 回答企業の従業員規模の割合

	10人未満	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上
今回調査（平成30年度）	7.1%	8.1%	9.1%	25.5%	21.4%	28.6%

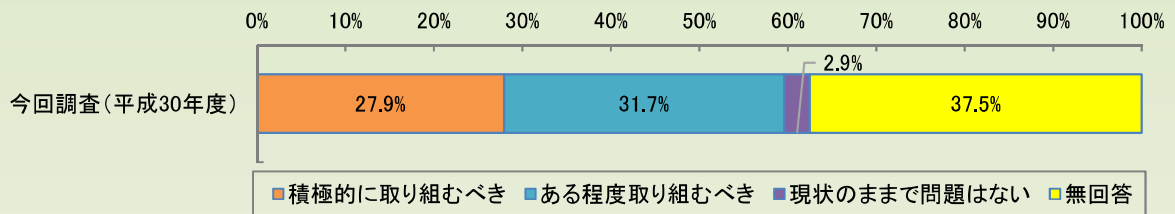
(2) その他の主な調査結果

ア ワーク・ライフ・バランスの取組についての認識（単数回答）

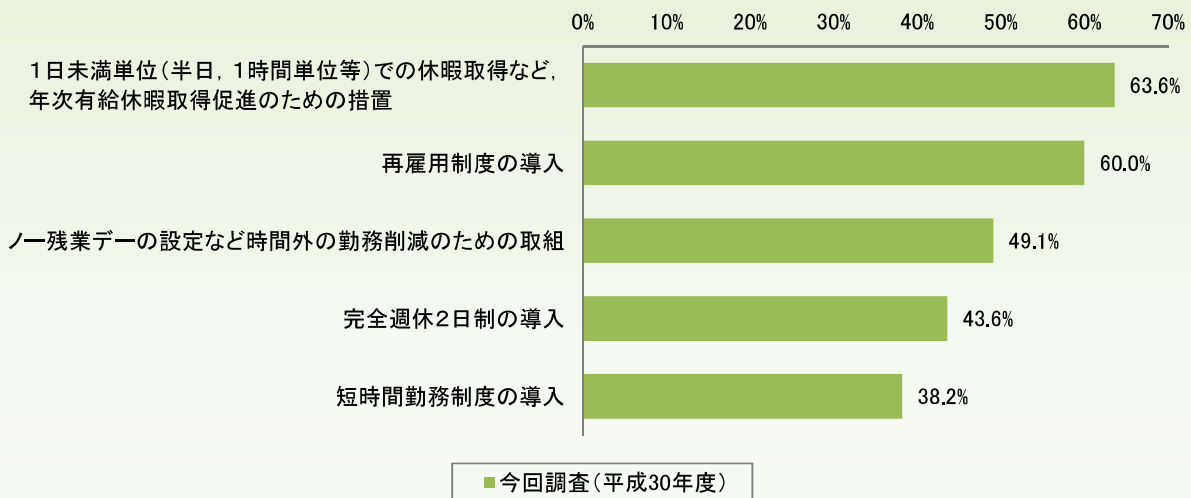
【現状】



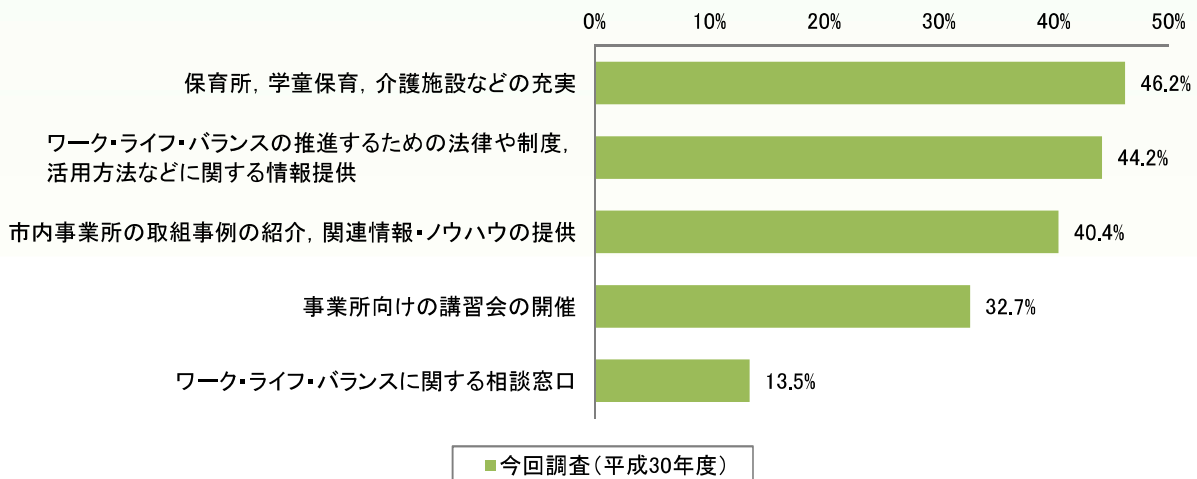
【今後】



イ ワーク・ライフ・バランスを推進する取組（複数回答）



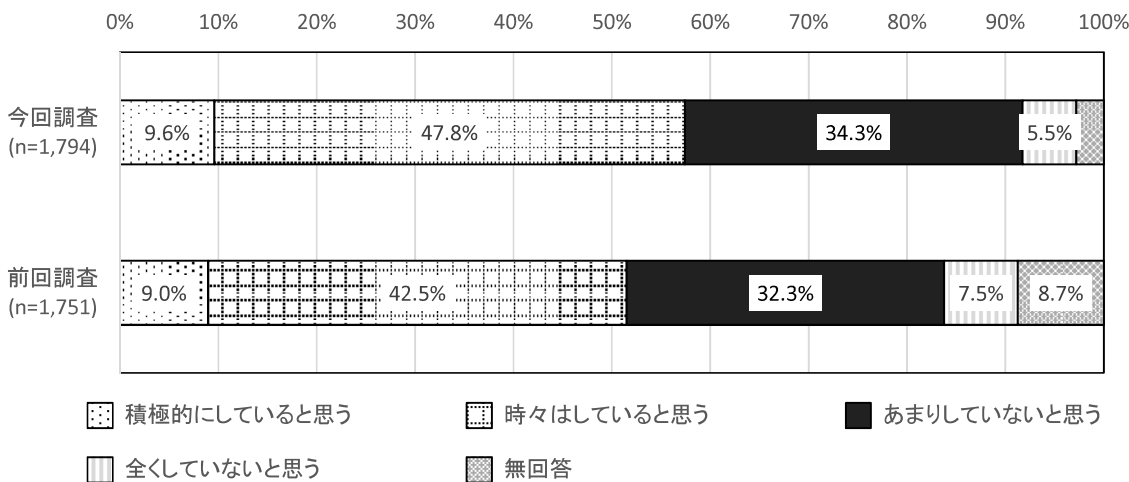
ウ ワーク・ライフ・バランスの実現のために、行政に希望すること（複数回答）



問36 あなたは、鹿児島県における男性の育児への関わり方について、どのような印象をお持ちですか。(〇はひとつ)

鹿児島県における男性の育児への関わり方については、「時々はしていると思う」が47.8%で最も多く、次いで「あまりしていないと思う」が34.3%、「積極的にしていると思う」が9.6%、「全くしていないと思う」が5.5%の順となっている。

前回調査と比較すると、「している(「積極的にしていると思う」+「時々はしていると思う)」と回答した割合は5.9ポイント増加している。

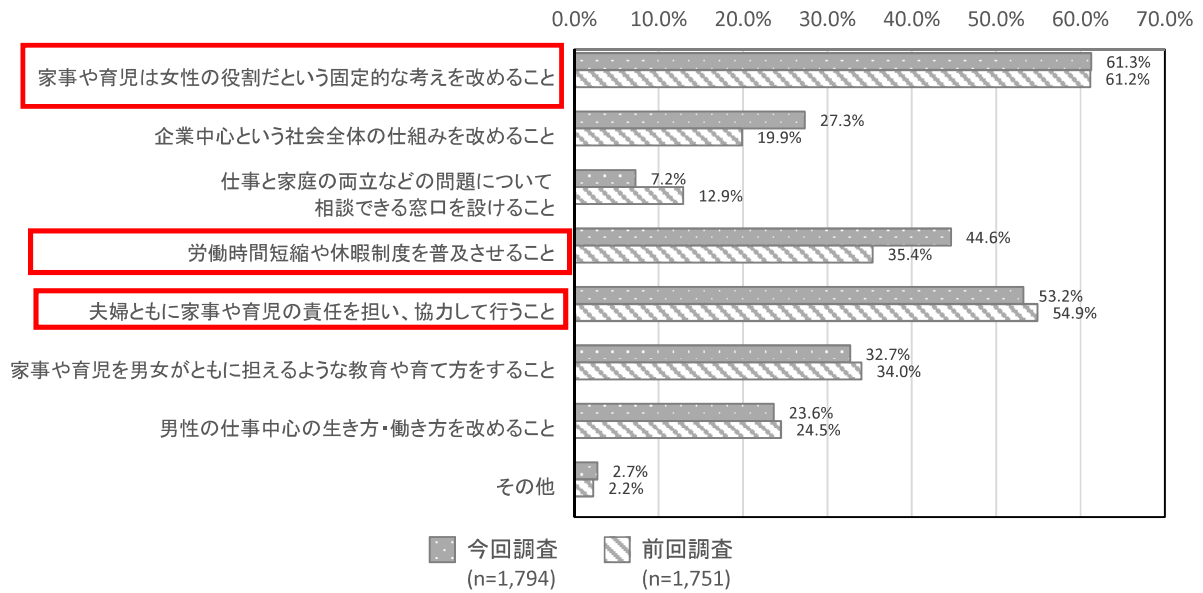


		サンプル数	積極的にしていると思う	時々はしていると思う	あまりしていないと思う	全くしていないと思う	無回答
上段:度数 下段:構成比(%)							
今回調査		1,794	172	858	616	98	50
		100.0%	9.6%	47.8%	34.3%	5.5%	2.8%
前回調査		1,751	157	745	565	131	153
		100.0%	9.0%	42.5%	32.3%	7.5%	8.7%
性別	男性	704	76	318	242	48	20
		100.0%	10.8%	45.2%	34.4%	6.8%	2.8%
女性	女性	1,076	95	534	368	49	30
		100.0%	8.8%	49.6%	34.2%	4.6%	2.8%
年齢	10歳代	150	15	66	53	13	3
		100.0%	10.0%	44.0%	35.3%	8.7%	2.0%
	20歳代	445	42	219	147	31	6
		100.0%	9.4%	49.2%	33.0%	7.0%	1.3%
	30歳代	460	54	223	147	20	16
		100.0%	11.7%	48.5%	32.0%	4.3%	3.5%
	40歳代	486	30	239	174	27	16
		100.0%	6.2%	49.2%	35.8%	5.6%	3.3%
50歳代	134	12	55	59	4	4	
	100.0%	9.0%	41.0%	44.0%	3.0%	3.0%	
60歳代	63	9	33	18	3	0	
	100.0%	14.3%	52.4%	28.6%	4.8%	0.0%	
70歳代以上	32	9	10	10	0	3	
	100.0%	28.1%	31.3%	31.3%	0.0%	9.4%	
地域別	鹿児島地区	911	79	421	334	57	20
		100.0%	8.7%	46.2%	36.7%	6.3%	2.2%
	南薩地区	117	11	60	37	3	6
		100.0%	9.4%	51.3%	31.6%	2.6%	5.1%
	北薩地区	187	16	91	62	12	6
		100.0%	8.6%	48.7%	33.2%	6.4%	3.2%
	始良・伊佐地区	239	26	115	76	17	5
		100.0%	10.9%	48.1%	31.8%	7.1%	2.1%
大隅地区	218	26	113	73	4	2	
	100.0%	11.9%	51.8%	33.5%	1.8%	0.9%	
熊毛地区	34	6	15	6	2	5	
	100.0%	17.6%	44.1%	17.6%	5.9%	14.7%	
大島地区	78	6	38	25	3	6	
	100.0%	7.7%	48.7%	32.1%	3.8%	7.7%	

問37 あなたは、今後、男性が女性とともに積極的に子育てをしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

今後、男性が積極的に子育てしていくのにどのようなことが必要かについては、「家事や育児は女性の役割だ」という固定的な考えを改めることが61.3%で最も多く、次いで「夫婦ともに家事や育児の責任を担い、協力して行うこと」が53.2%、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が44.6%となっている。

前回調査と比較すると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が9.2ポイント、「企業中心という社会全体の仕組みを改めること」が7.4ポイント増加している。

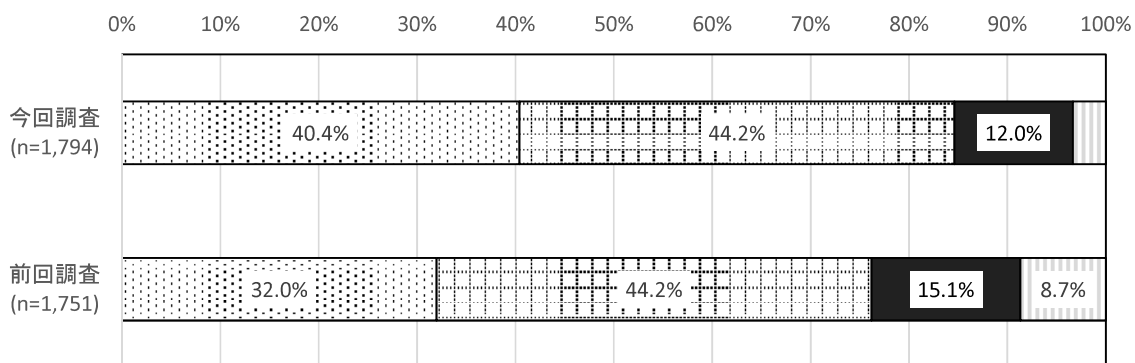


	サンプル数	改めるといふ固定的な考えを割	家事や育児は女性の役割を	企業中心という社会全体	仕事と家庭の両立などの問題を設けること	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	夫婦とともに家事や育児の責任を担い、協力して行うこと	家事や育児を男女がともに担えるような教育や育て方をすること	男性の仕事中心の生き方・働き方を改めること	その他
今回調査	1,794	1,099	490	130	801	955	587	424	49	
前回調査	1,751	1,071	348	226	619	961	596	429	39	
性別										
男性	704	375	229	51	353	331	203	165	25	
女性	1,076	715	260	76	444	617	377	256	23	
年齢										
10歳代	150	98	33	15	72	81	49	25	4	
20歳代	445	281	122	32	231	252	150	82	8	
30歳代	460	272	125	28	220	231	156	123	12	
40歳代	486	299	150	33	191	239	150	133	18	
50歳代	134	80	39	11	43	74	49	31	3	
60歳代	63	39	11	7	25	45	18	17	0	
70歳代以上	32	19	6	2	11	20	7	5	1	
地域別										
鹿児島地区	911	554	280	72	425	451	313	224	24	
南薩地区	117	75	25	10	43	70	40	24	1	
北薩地区	187	113	43	11	86	102	58	36	4	
始良・伊佐地区	239	149	62	19	105	140	72	49	9	
大隅地区	218	140	48	11	94	127	66	57	8	
熊本地区	34	23	6	3	12	20	8	11	0	
大島地区	78	41	22	3	34	39	25	20	2	

問38 あなたは、男性も育児休業制度を利用できることを知っていますか。(〇はひとつ)

男性も育児休業制度を利用できることを知っているかについては、「配偶者が働いている場合にのみ取得できると思っていた」が44.2%で最も多く、次いで「配偶者が働いていない場合でも取得できることを知っていた」が40.4%、「男性が取得できるとは知らなかった」が12.0%の順となっている。

前回調査と比較すると、「配偶者が働いていない場合でも取得できることを知っていた」と回答した割合は8.4ポイント増加している。



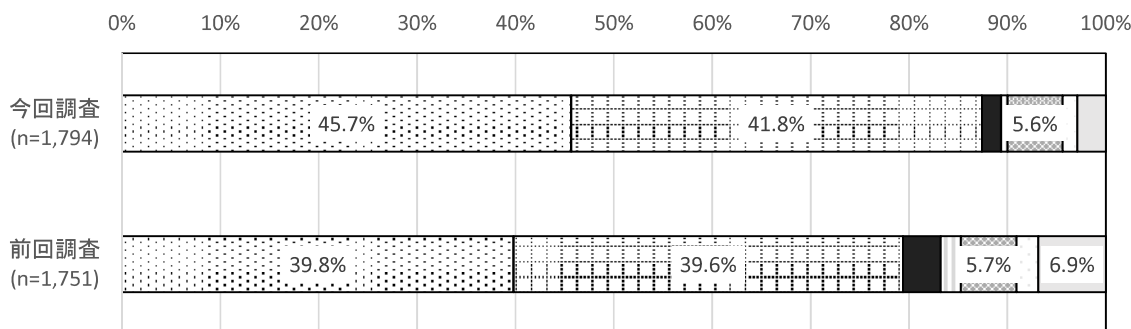
- 配偶者が働いていない場合でも取得できることを知っていた
- 配偶者が働いている場合にのみ取得できると思っていた
- 男性が取得できるとは知らなかった
- 無回答

		サンプル数	知合配 っても ても いた た 得 得 た た て て い い き き る る い い こ こ な な い い を を	てに配 いの偶 いたみ た者 が 取 得 働 で て い る 思 場 っ 合	ら男 性が 取 得 で き る と は 知	無 回 答
上段: 度数 下段: 構成比(%)						
今回調査		1,794	725	793	216	60
		100.0%	40.4%	44.2%	12.0%	3.3%
前回調査		1,751	560	774	265	152
		100.0%	32.0%	44.2%	15.1%	8.7%
性別	男性	704	289	261	127	27
		100.0%	41.1%	37.1%	18.0%	3.8%
性別	女性	1,076	428	528	87	33
		100.0%	39.8%	49.1%	8.1%	3.1%
年齢	10歳代	150	67	55	21	7
		100.0%	44.7%	36.7%	14.0%	4.7%
	20歳代	445	165	207	61	12
		100.0%	37.1%	46.5%	13.7%	2.7%
	30歳代	460	179	218	52	11
		100.0%	38.9%	47.4%	11.3%	2.4%
	40歳代	486	225	192	51	18
		100.0%	46.3%	39.5%	10.5%	3.7%
年齢	50歳代	134	47	70	10	7
		100.0%	35.1%	52.2%	7.5%	5.2%
	60歳代	63	24	25	13	1
		100.0%	38.1%	39.7%	20.6%	1.6%
年齢	70歳代以上	32	9	14	6	3
		100.0%	28.1%	43.8%	18.8%	9.4%
地域別	鹿児島地区	911	389	386	113	23
		100.0%	42.7%	42.4%	12.4%	2.5%
	南薩地区	117	42	51	16	8
		100.0%	35.9%	43.6%	13.7%	6.8%
	北薩地区	187	72	87	22	6
		100.0%	38.5%	46.5%	11.8%	3.2%
	姶良・伊佐地区	239	99	107	27	6
		100.0%	41.4%	44.8%	11.3%	2.5%
	大隅地区	218	85	102	24	7
	100.0%	39.0%	46.8%	11.0%	3.2%	
地域別	熊毛地区	34	12	18	2	2
		100.0%	35.3%	52.9%	5.9%	5.9%
地域別	大島地区	78	22	38	10	8
		100.0%	28.2%	48.7%	12.8%	10.3%

問39 あなたは、男性が育児休業制度を利用することをどう思いますか。(〇はひとつ)

男性が育児休業制度を利用することをどう思うかについては、「可能な限り取得した方がよい」が45.7%で最も多く、「取得した方がよいが、なかなか難しいので主に女性が取得するのはやむを得ない」が41.8%となっている。

前回調査と比較すると、「可能な限り取得したほうがよい」と回答した割合は、5.9ポイント増加している。



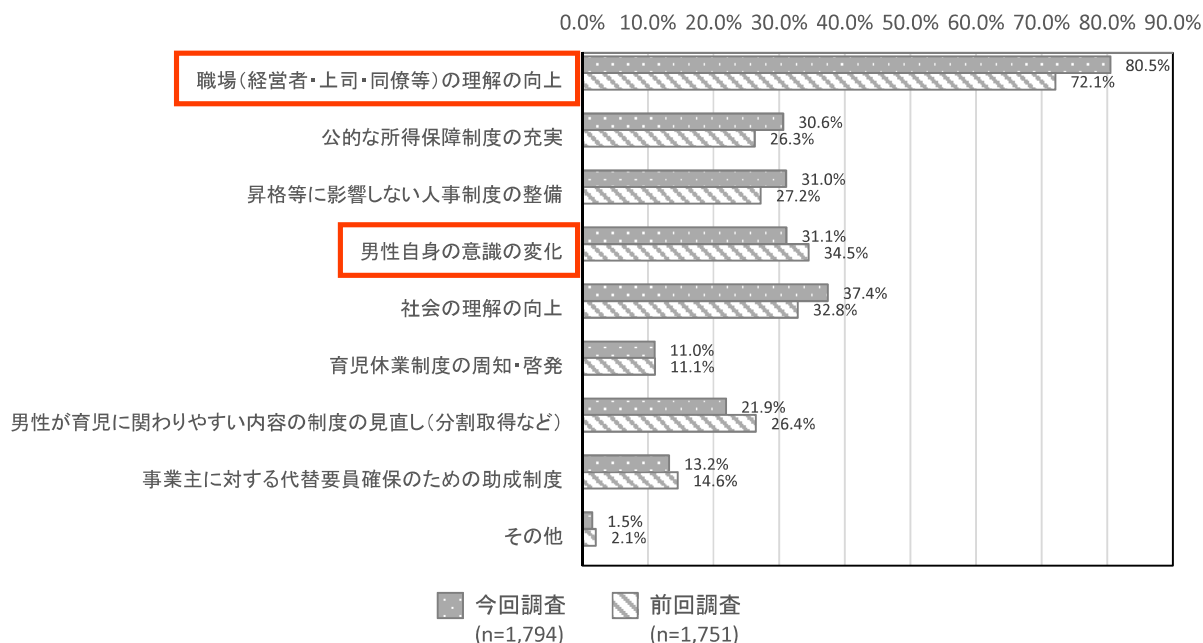
- 可能な限り取得したほうがよい
- 取得した方がよいが、なかなか難しいので主に女性が取得するのはやむを得ない
- あまり取得しない方がよい
- 取得すべきではない
- わからない
- その他
- 無回答

		サンプル数	可能な限り取得したほう	取得した方がよいが、なかなか難しいので主に女性が取得するのはやむを得ない	あまり取得しない方がよい	取得すべきではない	わからない	その他	無回答
上段:度数 下段:構成比(%)									
今回調査		1,794	819 45.7%	749 41.8%	35 2.0%	12 0.7%	100 5.6%	27 1.5%	52 2.9%
前回調査		1,751	697 39.8%	693 39.6%	67 3.8%	36 2.1%	99 5.7%	39 2.2%	120 6.9%
性別	男性	704	314 44.8%	283 40.2%	18 2.6%	6 0.9%	46 6.5%	12 1.7%	25 3.6%
	女性	1,076	494 45.9%	463 43.0%	17 1.6%	6 0.6%	54 5.0%	15 1.4%	27 2.5%
年齢	10歳代	150	92 61.3%	41 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	9 6.0%	2 1.3%	6 4.0%
	20歳代	445	220 49.4%	179 40.2%	6 1.3%	1 0.2%	23 5.2%	5 1.1%	11 2.5%
	30歳代	460	190 41.3%	215 46.7%	11 2.4%	5 1.1%	24 5.2%	5 1.1%	10 2.2%
	40歳代	486	211 43.4%	202 41.6%	15 3.1%	4 0.8%	30 6.2%	9 1.9%	15 3.1%
	50歳代	134	63 47.0%	55 41.0%	1 0.7%	0 0.0%	7 5.2%	4 3.0%	4 3.0%
	60歳代	63	20 31.7%	36 57.1%	1 1.6%	1 1.6%	3 4.8%	0 0.0%	2 3.2%
	70歳代以上	32	10 31.3%	16 50.0%	1 3.1%	0 0.0%	2 6.3%	0 0.0%	3 9.4%
地域別	鹿児島地区	911	444 48.7%	367 40.3%	18 2.0%	5 0.5%	44 4.8%	14 1.5%	19 2.1%
	南薩地区	117	39 33.3%	54 46.2%	1 0.9%	1 0.9%	9 7.7%	3 2.6%	10 8.5%
	北薩地区	187	71 38.0%	85 45.5%	11 5.9%	0 0.0%	13 7.0%	2 1.1%	5 2.7%
	姶良・伊佐地区	239	116 48.5%	95 39.7%	3 1.3%	3 1.3%	15 6.3%	3 1.3%	4 1.7%
	大隅地区	218	88 40.4%	108 49.5%	1 0.5%	2 0.9%	11 5.0%	3 1.4%	5 2.3%
	熊毛地区	34	13 38.2%	14 41.2%	0 0.0%	1 2.9%	4 11.8%	0 0.0%	2 5.9%
	大島地区	78	43 55.1%	23 29.5%	1 1.3%	0 0.0%	3 3.8%	1 1.3%	7 9.0%

問40 あなたは、男性の育児休業の取得を促進するには何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性の育児休業の取得を促進するのに何が重要かについては、「職場（経営者・上司・同僚等）の理解の向上」が80.5%で最も多く、次いで「社会の理解の向上」が37.4%、「男性自身の意識の変化」が31.1%となっている。

前回調査と比較すると、「職場（経営者・上司・同僚等）の理解の向上」の割合が8.4ポイント増加している。

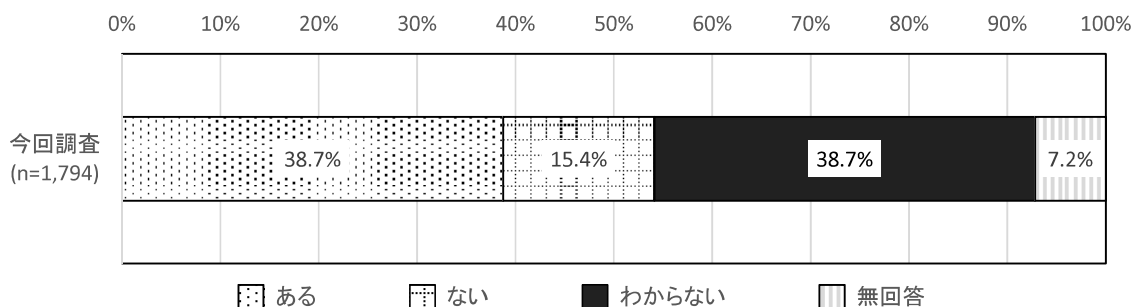


	サンプル数	職場（経営者・上司・同僚等）の理解の向上	公的な所得保障制度の充実	昇格等に影響しない人事制度の整備	男性自身の意識の変化	社会の理解の向上	育児休業制度の周知・啓発	男性が育児に関わりやすい内容の制度の見直し(分割取得など)	事業主に対する代替要員確保のための助成制度	その他
上段：度数 下段：構成比(%)										
今回調査	1,794	1444 (80.5%)	549 (30.6%)	557 (31.0%)	558 (31.1%)	671 (37.4%)	198 (11.0%)	393 (21.9%)	237 (13.2%)	27 (1.5%)
前回調査	1,751	1262 (72.1%)	460 (26.3%)	476 (27.2%)	604 (34.5%)	575 (32.8%)	194 (11.1%)	463 (26.4%)	255 (14.6%)	36 (2.1%)
性別										
男性	704	545 (77.4%)	242 (34.4%)	223 (31.7%)	178 (25.3%)	271 (38.5%)	74 (10.5%)	146 (20.7%)	99 (14.1%)	11 (1.6%)
女性	1,076	887 (82.4%)	304 (28.3%)	331 (30.8%)	374 (34.8%)	398 (37.0%)	124 (11.5%)	244 (22.7%)	134 (12.5%)	15 (1.4%)
年齢										
10歳代	150	121 (80.7%)	34 (22.7%)	50 (33.3%)	56 (37.3%)	62 (41.3%)	20 (13.3%)	26 (17.3%)	5 (3.3%)	3 (2.0%)
20歳代	445	379 (85.2%)	112 (25.2%)	145 (32.6%)	133 (29.9%)	200 (44.9%)	59 (13.3%)	115 (25.8%)	31 (7.0%)	4 (0.9%)
30歳代	460	377 (82.0%)	158 (34.3%)	160 (34.8%)	133 (28.9%)	173 (37.6%)	48 (10.4%)	89 (19.3%)	77 (16.7%)	4 (0.9%)
40歳代	486	376 (77.4%)	166 (34.2%)	152 (31.3%)	151 (31.1%)	163 (33.5%)	45 (9.3%)	94 (19.3%)	76 (15.6%)	11 (2.3%)
50歳代	134	99 (73.9%)	40 (29.9%)	31 (23.1%)	47 (35.1%)	42 (31.3%)	12 (9.0%)	38 (28.4%)	30 (22.4%)	2 (1.5%)
60歳代	63	54 (85.7%)	20 (31.7%)	10 (15.9%)	19 (30.2%)	14 (22.2%)	8 (12.7%)	20 (31.7%)	8 (12.7%)	0 (0.0%)
70歳代以上	32	21 (65.6%)	11 (34.4%)	5 (15.6%)	13 (40.6%)	8 (25.0%)	6 (18.8%)	4 (12.5%)	6 (18.8%)	0 (0.0%)
地域別										
鹿児島地区	911	743 (81.6%)	276 (30.3%)	300 (32.9%)	279 (30.6%)	353 (38.7%)	99 (10.9%)	192 (21.1%)	123 (13.5%)	13 (1.4%)
南薩地区	117	86 (73.5%)	32 (27.4%)	28 (23.9%)	40 (34.2%)	39 (33.3%)	19 (16.2%)	28 (23.9%)	15 (12.8%)	2 (1.7%)
北薩地区	187	153 (81.8%)	60 (32.1%)	54 (28.9%)	47 (25.1%)	70 (37.4%)	15 (8.0%)	47 (25.1%)	29 (15.5%)	3 (1.6%)
始良・伊佐地区	239	192 (80.3%)	68 (28.5%)	83 (34.7%)	76 (31.8%)	90 (37.7%)	20 (8.4%)	59 (24.7%)	30 (12.6%)	3 (1.3%)
大隅地区	218	180 (82.6%)	75 (34.4%)	59 (27.1%)	77 (35.3%)	83 (38.1%)	26 (11.9%)	43 (19.7%)	18 (8.3%)	2 (0.9%)
熊毛地区	34	26 (76.5%)	11 (32.4%)	10 (29.4%)	14 (41.2%)	13 (38.2%)	3 (8.8%)	5 (14.7%)	5 (14.7%)	0 (0.0%)
大島地区	78	54 (69.2%)	25 (32.1%)	19 (24.4%)	23 (29.5%)	22 (28.2%)	15 (19.2%)	16 (20.5%)	15 (19.2%)	3 (3.8%)

問 4 1 あなたのお勤めの会社には育児休業制度の規定がありますか。(〇はひとつ)

会社には育児休業制度の規定があるかについては、「ある」が38.7%、「ない」が15.4%、「わからない」が38.7%、「わからない」が38.7%となっている。

性別でみると、男性は「わからない」が42.2%で最も多く、女性は「ある」が42.4%で最も多くなっている。



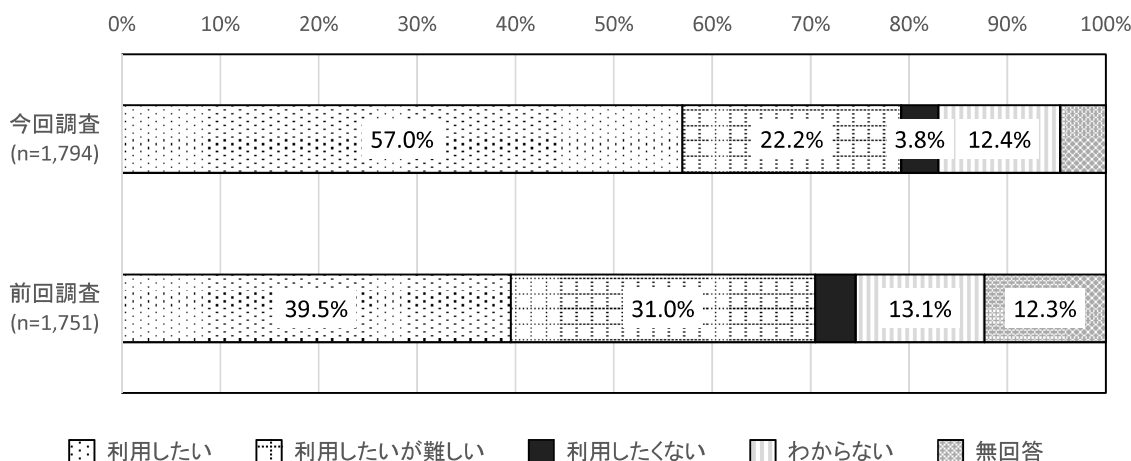
		サンプル数	ある	ない	わからない	無回答
上段: 度数 下段: 構成比(%)						
今回調査		1,794	695	276	694	129
		100.0%	38.7%	15.4%	38.7%	7.2%
性別	男性	704	235	121	297	51
		100.0%	33.4%	17.2%	42.2%	7.2%
	女性	1,076	456	154	388	78
		100.0%	42.4%	14.3%	36.1%	7.2%
年齢	10歳代	150	8	8	117	17
		100.0%	5.3%	5.3%	78.0%	11.3%
	20歳代	445	153	45	216	31
		100.0%	34.4%	10.1%	48.5%	7.0%
	30歳代	460	215	74	143	28
		100.0%	46.7%	16.1%	31.1%	6.1%
	40歳代	486	224	94	151	17
		100.0%	46.1%	19.3%	31.1%	3.5%
50歳代	134	67	29	29	9	
	100.0%	50.0%	21.6%	21.6%	6.7%	
60歳代	63	19	11	24	9	
	100.0%	30.2%	17.5%	38.1%	14.3%	
70歳代以上	32	2	9	6	15	
	100.0%	6.3%	28.1%	18.8%	46.9%	
地域別	鹿児島地区	911	342	128	386	55
		100.0%	37.5%	14.1%	42.4%	6.0%
	南薩地区	117	42	19	40	16
		100.0%	35.9%	16.2%	34.2%	13.7%
	北薩地区	187	79	33	61	14
		100.0%	42.2%	17.6%	32.6%	7.5%
	始良・伊佐地区	239	100	38	87	14
		100.0%	41.8%	15.9%	36.4%	5.9%
大隅地区	218	85	38	82	13	
	100.0%	39.0%	17.4%	37.6%	6.0%	
熊毛地区	34	13	3	12	6	
	100.0%	38.2%	8.8%	35.3%	17.6%	
大島地区	78	29	15	24	10	
	100.0%	37.2%	19.2%	30.8%	12.8%	

問 4 2 あなたは、育児休業制度を利用したいと思いますか。現在働いていない人は働いていると想定してお答えください。出産予定がない人は出産すると想定してお答えください。(〇はひとつ)

育児休業制度を利用したいと思うかについては、「利用したい」が 57.0%、「利用したいが難しい」が 22.2% 「利用したくない」が 3.8%、「わからない」が 12.4%となっている。

性別でみると、「利用したい」と回答した女性の割合は、男性を 34.9 ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、「利用したい」と回答した割合は 17.5 ポイント増加している。



利用したい
 利用したいが難しい
 利用したくない
 わからない
 無回答

		サンプル数	利用したい	利用したいが難しい	利用したくない	わからない	無回答
上段:度数 下段:構成比(%)							
今回調査		1,794	1022	399	68	222	83
		100.0%	57.0%	22.2%	3.8%	12.4%	4.6%
前回調査		1,751	692	542	72	229	216
		100.0%	39.5%	31.0%	4.1%	13.1%	12.3%
性別	男性	704	254	248	40	127	35
		100.0%	36.1%	35.2%	5.7%	18.0%	5.0%
女性		1,076	764	147	27	91	47
		100.0%	71.0%	13.7%	2.5%	8.5%	4.4%
年齢	10歳代	150	98	19	1	21	11
		100.0%	65.3%	12.7%	0.7%	14.0%	7.3%
	20歳代	445	294	65	17	56	13
		100.0%	66.1%	14.6%	3.8%	12.6%	2.9%
	30歳代	460	269	126	18	32	15
		100.0%	58.5%	27.4%	3.9%	7.0%	3.3%
	40歳代	486	253	122	27	64	20
		100.0%	52.1%	25.1%	5.6%	13.2%	4.1%
50歳代	134	66	39	3	22	4	
	100.0%	49.3%	29.1%	2.2%	16.4%	3.0%	
60歳代	63	25	17	2	14	5	
	100.0%	39.7%	27.0%	3.2%	22.2%	7.9%	
70歳代以上	32	7	3	0	9	13	
	100.0%	21.9%	9.4%	0.0%	28.1%	40.6%	
地域別	鹿児島地区	911	529	215	31	102	34
		100.0%	58.1%	23.6%	3.4%	11.2%	3.7%
	南薩地区	117	54	23	4	23	13
		100.0%	46.2%	19.7%	3.4%	19.7%	11.1%
	北薩地区	187	101	49	6	22	9
		100.0%	54.0%	26.2%	3.2%	11.8%	4.8%
	始良・伊佐地区	239	135	52	13	33	6
		100.0%	56.5%	21.8%	5.4%	13.8%	2.5%
大隅地区	218	139	34	7	28	10	
	100.0%	63.8%	15.6%	3.2%	12.8%	4.6%	
熊毛地区	34	16	6	4	5	3	
	100.0%	47.1%	17.6%	11.8%	14.7%	8.8%	
大島地区	78	44	15	3	8	8	
	100.0%	56.4%	19.2%	3.8%	10.3%	10.3%	

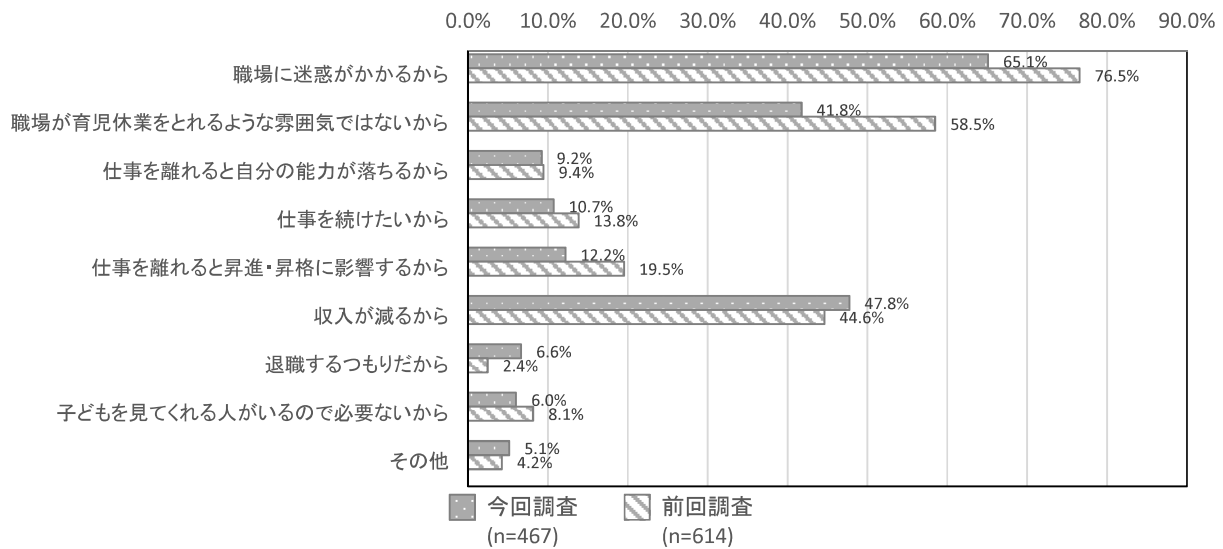
【問42で「利用したくない」を選択した方のみ】

問43 あなたが育児休業制度を利用したくない（利用したいが難しい）と思うのは、どのような理由からですか。（〇は3つまで）

育児休業制度を利用したくない理由については、「職場に迷惑がかかるから」が65.1%で最も多く、次いで「収入が減るから」が47.8%、「職場が育児休業をとれるような雰囲気ではないから」が41.8%となっている。

性別でみると、「仕事を離れると昇進・昇格に影響するから」と回答した男性は、女性を12.1ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、「職場に迷惑がかかるから」が11.4ポイント、「職場が育児休業をとれるような雰囲気ではないから」が16.7ポイント減少している。

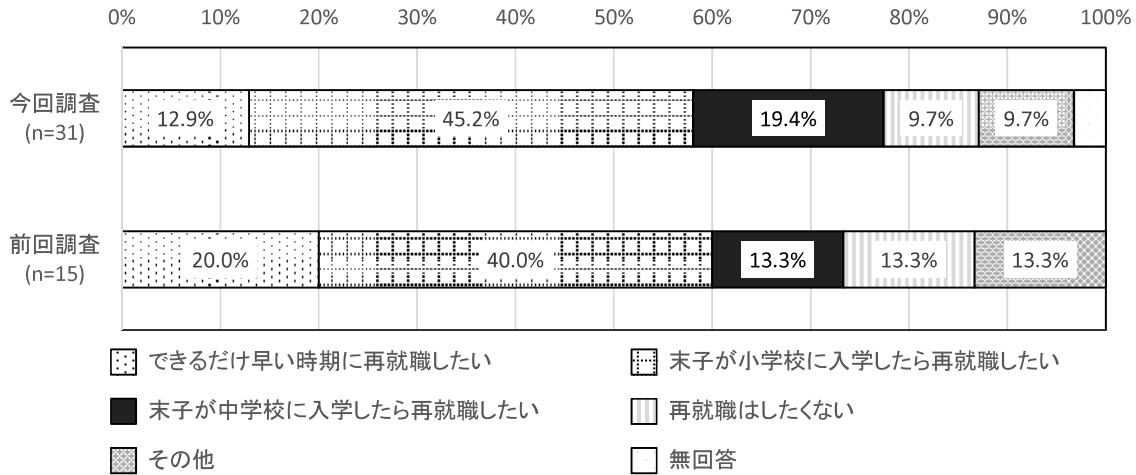


	サンプル数	理由								
		職場に迷惑がかかるから	職場が育児休業をとれるような雰囲気ではないから	仕事を離れると自分の能力が落ちるから	仕事を続けたいから	仕事を離れると昇進・昇格に影響するから	収入が減るから	退職するつもりだから	子どもを見てくれる人がいるので必要ないから	その他
上段:度数 下段:構成比(%)										
今回調査	467	304 65.1%	195 41.8%	43 9.2%	50 10.7%	57 12.2%	223 47.8%	31 6.6%	28 6.0%	24 5.1%
前回調査	614	470 76.5%	359 58.5%	58 9.4%	85 13.8%	120 19.5%	274 44.6%	15 2.4%	50 8.1%	26 4.2%
性別										
男性	288	203 70.5%	130 45.1%	25 8.7%	30 10.4%	48 16.7%	145 50.3%	2 0.7%	23 8.0%	13 4.5%
女性	174	98 56.3%	63 36.2%	18 10.3%	19 10.9%	8 4.6%	75 43.1%	29 16.7%	4 2.3%	11 6.3%
年齢										
10歳代	20	12 60.0%	3 15.0%	1 5.0%	1 5.0%	3 15.0%	8 40.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%
20歳代	82	50 61.0%	32 39.0%	12 14.6%	12 14.6%	15 18.3%	33 40.2%	11 13.4%	5 6.1%	3 3.7%
30歳代	144	99 68.8%	69 47.9%	13 9.0%	11 7.6%	13 9.0%	77 53.5%	9 6.3%	8 5.6%	5 3.5%
40歳代	149	92 61.7%	61 40.9%	10 6.7%	17 11.4%	17 11.4%	74 49.7%	6 4.0%	9 6.0%	12 8.1%
50歳代	42	30 71.4%	20 47.6%	6 14.3%	5 11.9%	4 9.5%	19 45.2%	4 9.5%	5 11.9%	0 0.0%
60歳代	19	14 73.7%	6 31.6%	1 5.3%	2 10.5%	3 15.8%	8 42.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 10.5%
70歳代以上	3	2 66.7%	2 66.7%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
地域別										
鹿児島地区	246	162 65.9%	115 46.7%	25 10.2%	25 10.2%	35 14.2%	109 44.3%	16 6.5%	13 5.3%	12 4.9%
南薩地区	27	21 77.8%	8 29.6%	1 3.7%	1 3.7%	1 3.7%	16 59.3%	1 3.7%	1 3.7%	1 3.7%
北薩地区	55	39 70.9%	28 50.9%	7 12.7%	4 7.3%	5 9.1%	30 54.5%	1 1.8%	3 5.5%	0 0.0%
始良・伊佐地区	65	42 64.6%	22 33.8%	6 9.2%	11 16.9%	5 7.7%	29 44.6%	5 7.7%	4 6.2%	4 6.2%
大隅地区	41	22 53.7%	11 26.8%	1 2.4%	4 9.8%	7 17.1%	22 53.7%	4 9.8%	4 9.8%	5 12.2%
熊毛地区	10	5 50.0%	5 50.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	6 60.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%
大島地区	18	10 55.6%	4 22.2%	3 16.7%	4 22.2%	2 11.1%	9 50.0%	1 5.6%	1 5.6%	1 5.6%

【問43で「退職するつもりだから」を選択した方のみ】

問44 あなたは、退職後、再就職を希望しますか。(〇はひとつ)

退職後、再就職を希望するかについては、「末子が小学校に入学したら再就職したい」が45.2%で最も多く、次いで「末子が中学校に入学したら再就職したい」が19.4%、「できるだけ早い時期に再就職したい」が12.9%となっている。



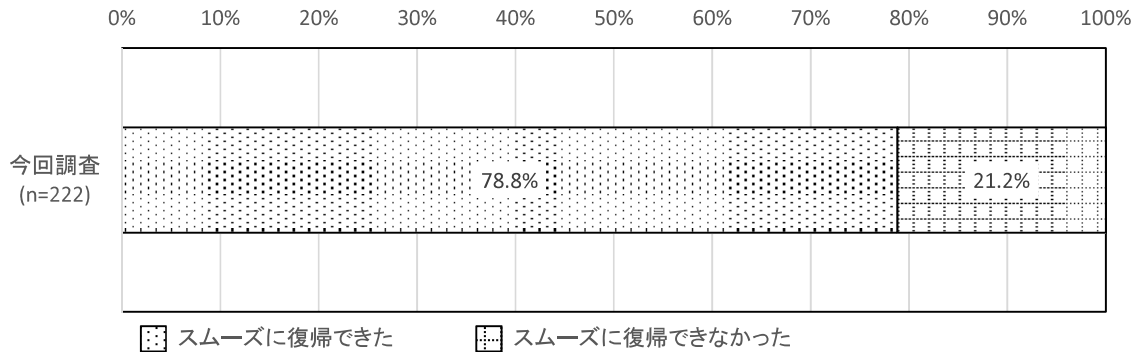
		サンプル数	できるだけ早い時期に再就職したい	末子が小学校に入学したら再就職したい	末子が中学校に入学したら再就職したい	再就職はしたくない	その他	無回答
		上段: 度数	下段: 構成比(%)					
今回調査		31	4	14	6	3	3	1
		100.0%	12.9%	45.2%	19.4%	9.7%	9.7%	3.2%
前回調査		15	3	6	2	2	2	2
		100.0%	20.0%	40.0%	13.3%	13.3%	13.3%	0.0%
性別	男性	2	0	0	0	1	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
女性	29	4	14	6	2	3	0	
		100.0%	13.8%	48.3%	20.7%	6.9%	10.3%	0.0%
年齢	10歳代	1	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11	3	5	1	1	0	1
		100.0%	27.3%	45.5%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%
	30歳代	9	0	6	1	0	2	0
		100.0%	0.0%	66.7%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%
	40歳代	6	1	3	1	0	1	0
		100.0%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
50歳代	4	0	0	2	2	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
60歳代	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳代以上	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別	鹿児島地区	16	2	7	2	2	3	0
		100.0%	12.5%	43.8%	12.5%	12.5%	18.8%	0.0%
	南薩地区	1	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	北薩地区	1	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	始良・伊佐地区	5	1	2	2	0	0	0
		100.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大隅地区	4	0	3	0	0	0	1	
	100.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
熊毛地区	2	0	2	0	0	0	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
大島地区	1	1	0	0	0	0	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

【実際に育児休業制度を利用した経験がある方のみ】

問45 あなたは、育児休業制度を利用後、スムーズに職場復帰できましたか。(〇はひとつ)

※ 無回答を除く

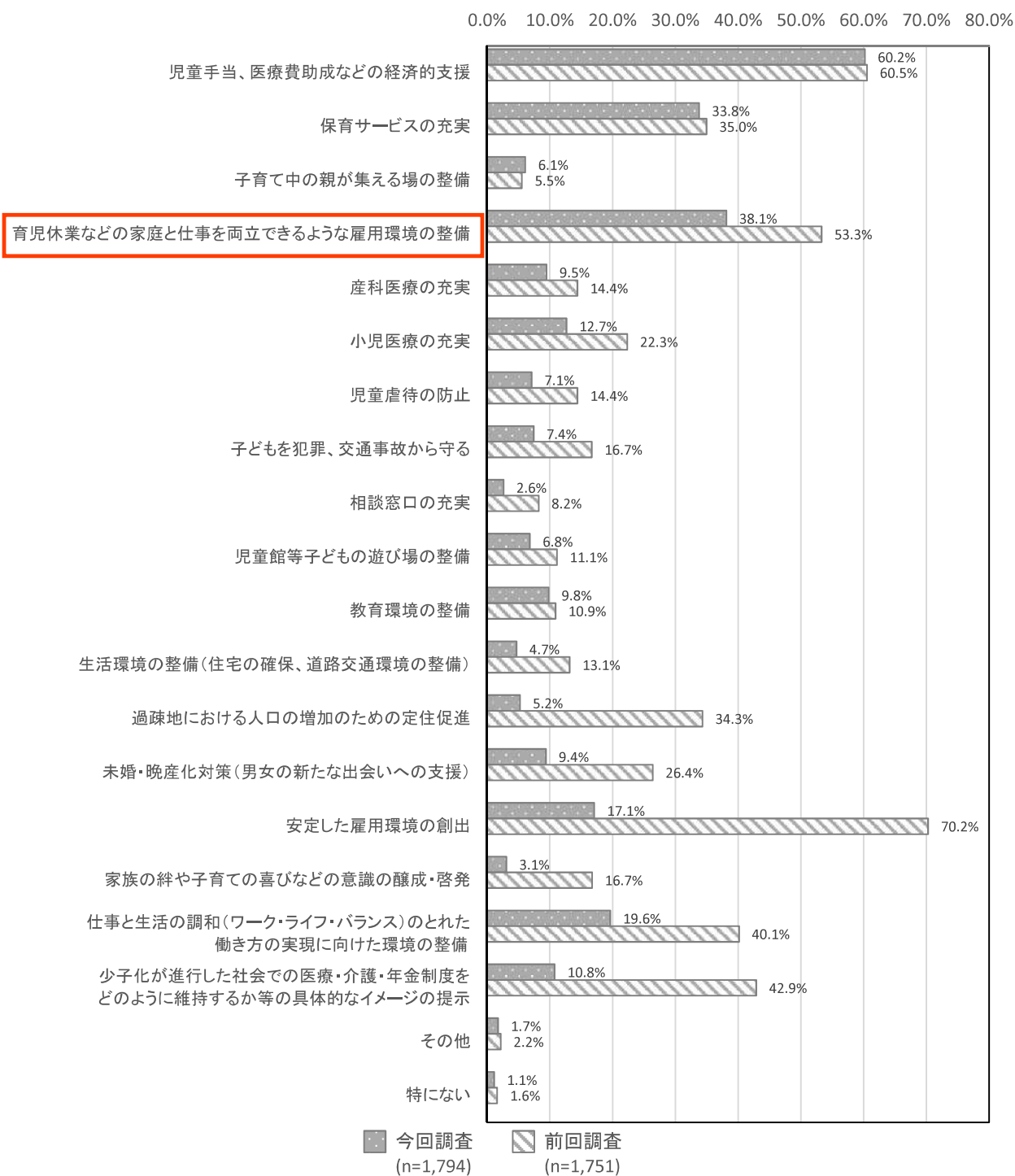
育児休業制度を利用後、スムーズに職場復帰できたかについては、「スムーズに復帰できた」が78.8%、「スムーズに復帰できなかった」が21.2%となっている。



		サンプル数	スムーズに復帰できた	スムーズに復帰できなかった
上段: 度数 下段: 構成比(%)				
今回調査		222	175	47
		100.0%	78.8%	21.2%
性別	男性	33	25	8
		100.0%	75.8%	24.2%
性別	女性	187	148	39
		100.0%	79.1%	20.9%
年齢	10歳代	3	3	0
		100.0%	100.0%	0.0%
	20歳代	29	28	3
		100.0%	99.7%	10.3%
	30歳代	92	65	27
		100.0%	70.7%	29.3%
	40歳代	76	64	12
		100.0%	84.2%	15.8%
地域別	50歳代	13	10	3
		100.0%	76.9%	23.1%
	60歳代	4	3	1
		100.0%	75.0%	25.0%
	70歳代以上	2	2	0
		100.0%	100.0%	0.0%
	鹿児島地区	106	88	20
		100.0%	81.1%	18.9%
南薩地区	11	8	3	
	100.0%	72.7%	27.3%	
北薩地区	21	13	8	
	100.0%	61.9%	38.1%	
始良・伊佐地区	38	28	10	
	100.0%	73.7%	26.3%	
大隅地区	26	20	6	
	100.0%	76.9%	23.1%	
熊毛地区	4	4	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	
大島地区	15	15	0	
	100.0%	100.0%	0.0%	

問63 あなたは、子どもを健やかに産み育てるためには、国や県、市町村にどのようなことを期待しますか。(〇は3つまで)

子どもを健やかに産み育てるためには、国や県、市町村にどのようなことを期待するかについては、「児童手当、医療費助成などの経済的支援」が60.2%で最も多く、次いで「育児休業などの家庭と仕事を両立できるような雇用環境の整備」が38.1%、「保育サービスの充実」が33.8%となっている。

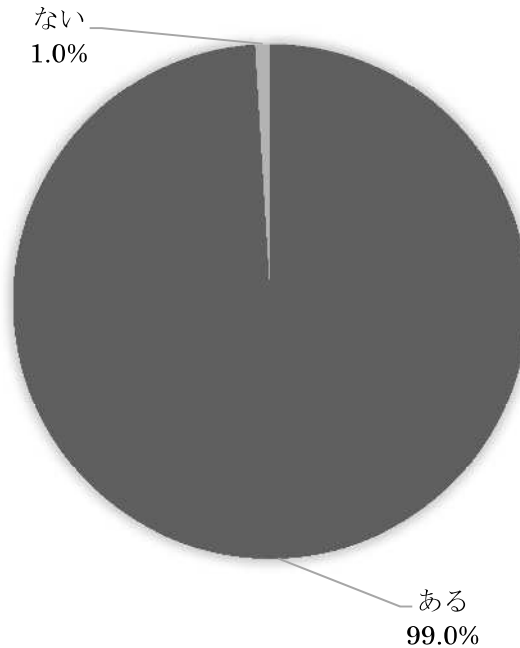


※ 前回調査で2つの設問に分かれていたものを今回調査において集約しているため、前回の調査結果については参考とする。

事業所調査結果

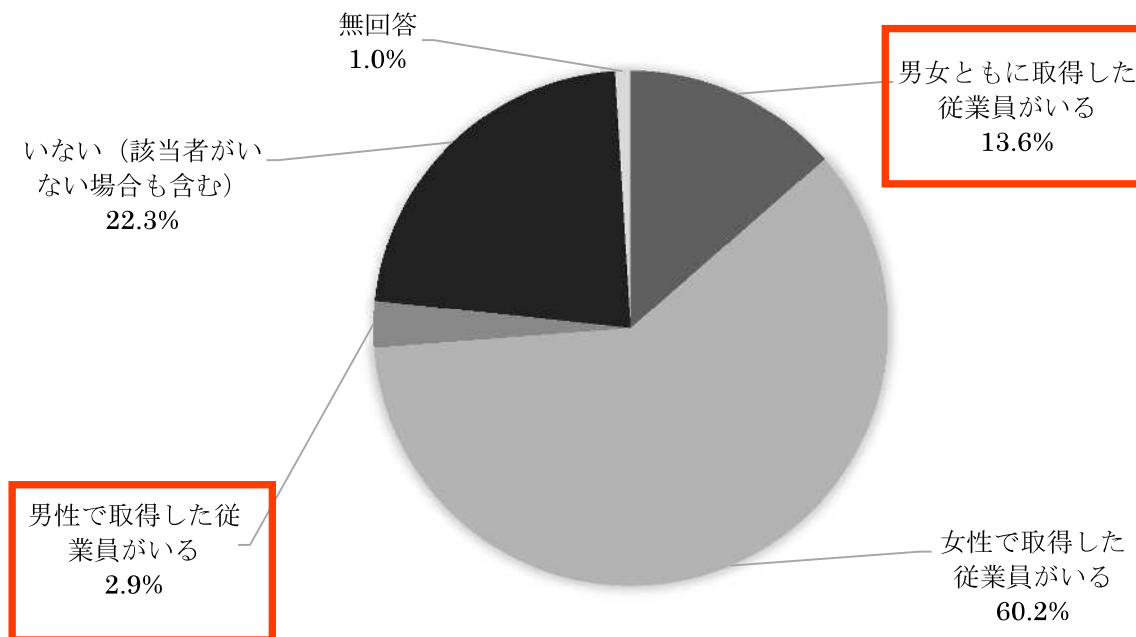
問 16 貴社の就業規則等には「育児休業制度」の規定はありますか。(〇はひとつ)

就業規則に「育児休業制度」の規定があるかについては、「ある」が99.0%、「ない」が1.0%となっている。



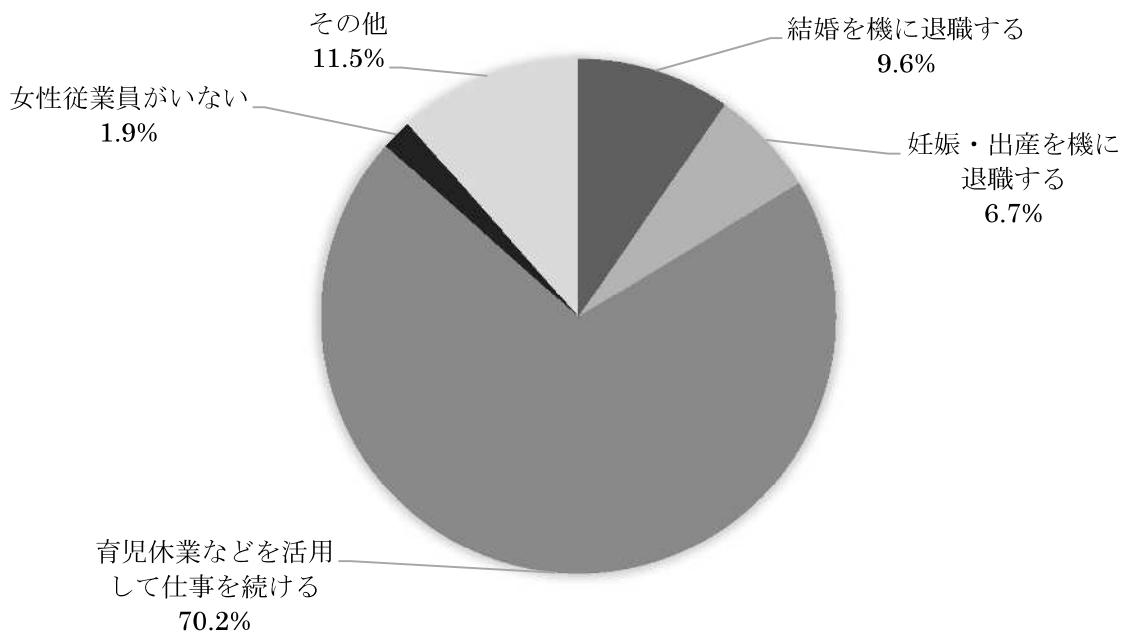
問 17 貴社ではこれまでに育児休業制度を利用した従業員はいましたか。(〇はひとつ)

これまでに育児休業制度を利用した従業員がいたかについては、「女性で取得した従業員がいる」が60.2%で最も多く、次いで「いない(該当者がいない場合も含む)」が22.3%、「男女ともに取得した従業員がいる」が13.6%、「男性で取得した従業員がいる」が2.9%の順となっている。



問 18 貴社の女性の働き方として、どのような形が多いですか。(〇はひとつ)

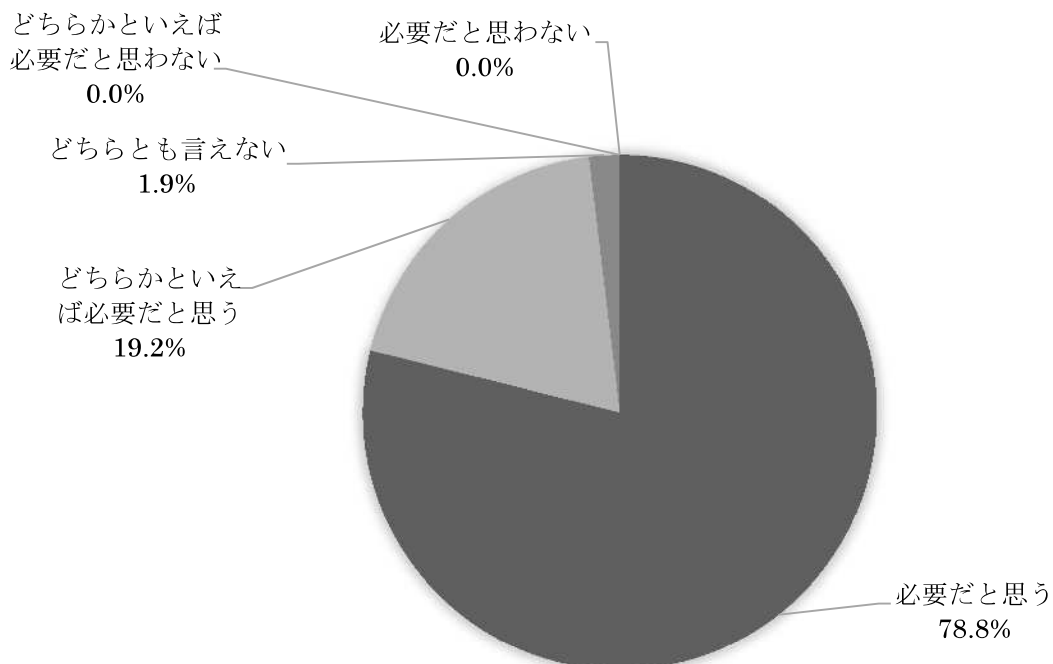
女性の働き方として、どのような形が多いかについては、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が70.2%で最も多く、次いで「その他」が11.5%、「結婚を機に退職する」が9.6%となっている。



問 19 企業が従業員の子育て支援に取り組むことについてどう考えていますか。(〇はひとつ)

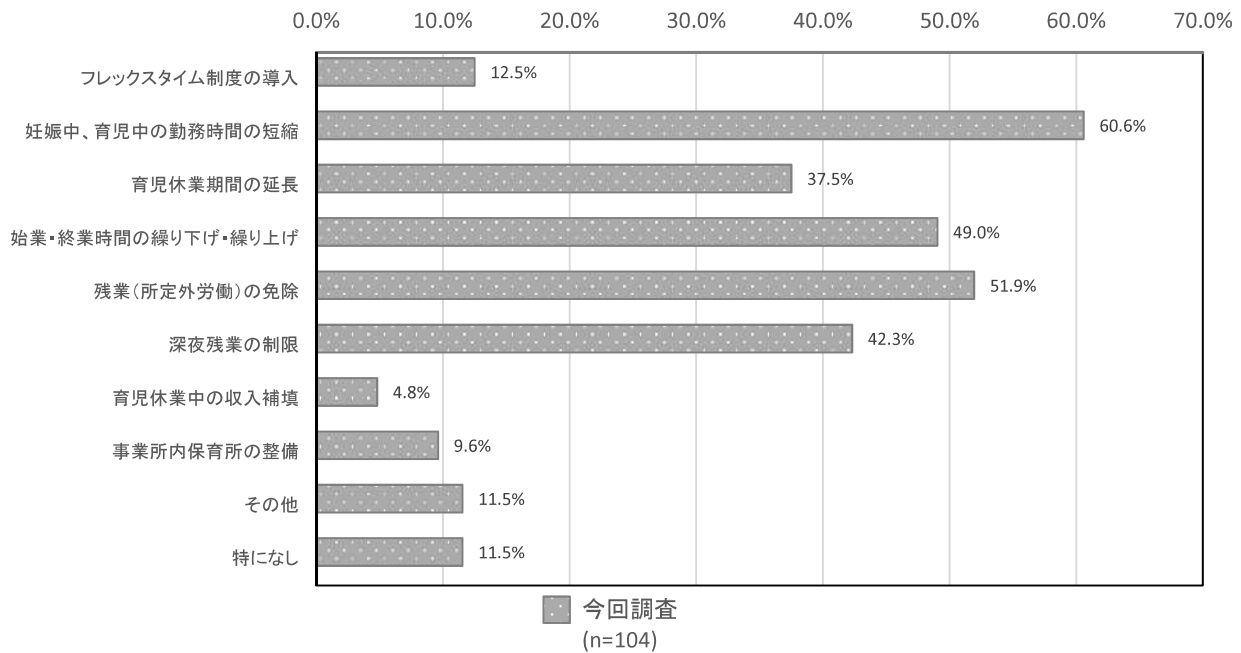
企業が従業員の子育て支援に取り組むことについてどう考えているかについては、「必要だと思う」が78.8%、「どちらかといえば必要だと思う」が19.2%、「どちらかといえば必要だと思わない」が1.9%となっている。

「どちらかといえば必要だと思わない」・「必要だと思わない」と回答した企業はなかった。



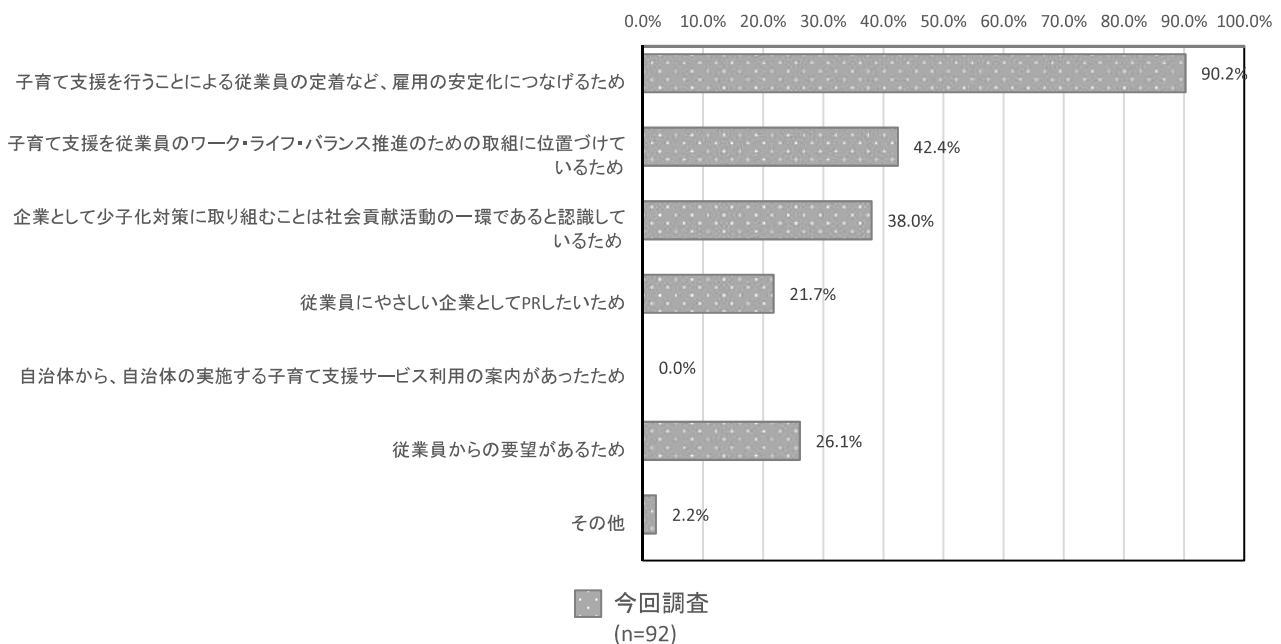
問20 貴社で取り組んでいる子育て支援の内容についてお答えください。(〇はいくつでも)

取り組んでいる子育て支援の内容については、「妊娠中、育児中の勤務時間の短縮」が60.6%で最も多く、次いで「残業(所定外労働)の免除」が51.9%、「始業・終業時間の繰り下げ・繰り上げ」が49.0%となっている。



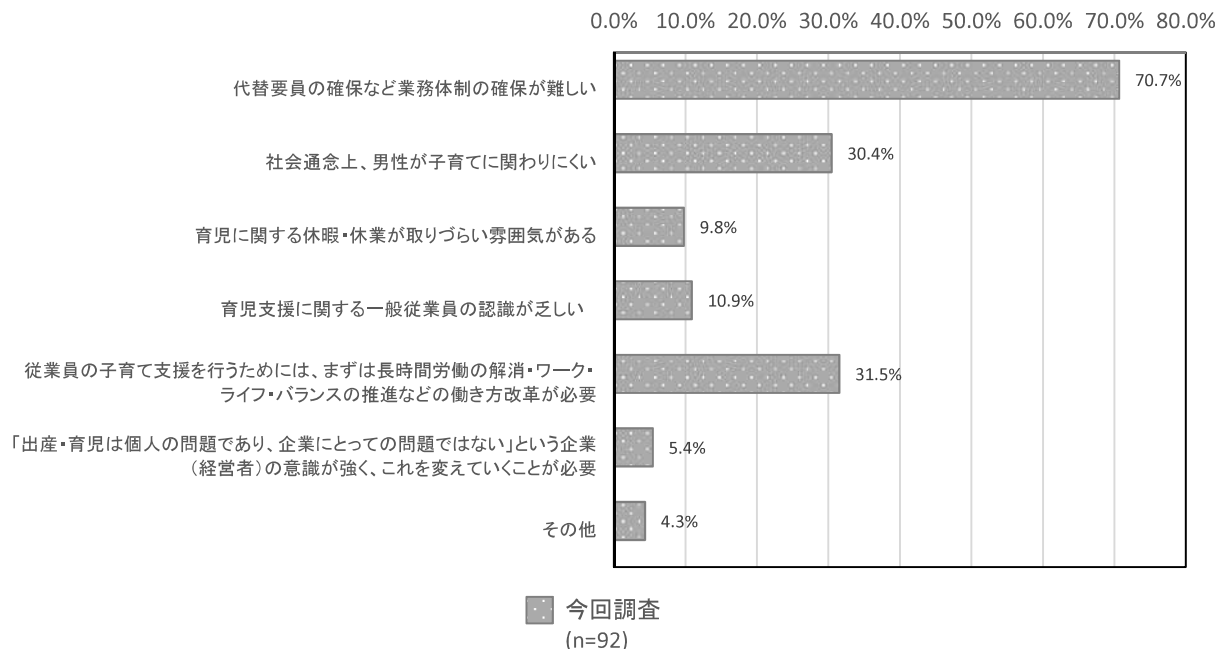
問21 子育て支援に取り組んでいる理由をお答えください。(〇はいくつでも)

子育て支援に取り組んでいる理由については、「子育て支援を行うことによる従業員の定着など、雇用の安定化につなげるため」が90.2%で最も多く、次いで「子育て支援を従業員のワーク・ライフ・バランス推進のための取組に位置づけているため」が42.4%、「企業として少子化対策に取り組むことは社会貢献活動の一環であると認識しているため」が38.0%となっている。



問 2 2 企業が従業員の子育て支援を行うことの課題についてお答えください。(〇はいくつでも)

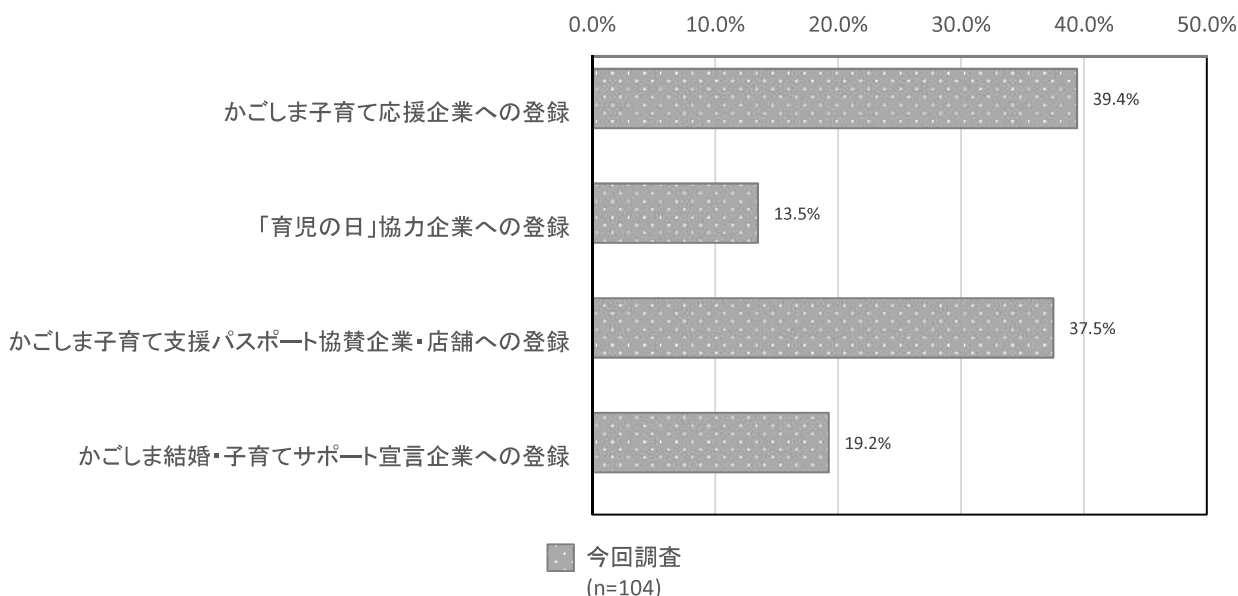
企業が従業員の子育て支援を行うことの課題については、「代替要因の確保など業務体制の確保が難しい」が 70.7%で最も多く、次いで「従業員の子育て支援を行うためには、まずは長時間労働の解消・ワーク・ライフ・バランスの推進など働き方改革が必要」が 31.5%、「社会通念上、男性が子育てに関わりにくい」が 30.4%となっている。



問 2 3 鹿児島県が企業と協力して実施している子育て支援事業について、「知っている」または「既に取り組んでいる」ものを全て選択してください。(〇はいくつでも)

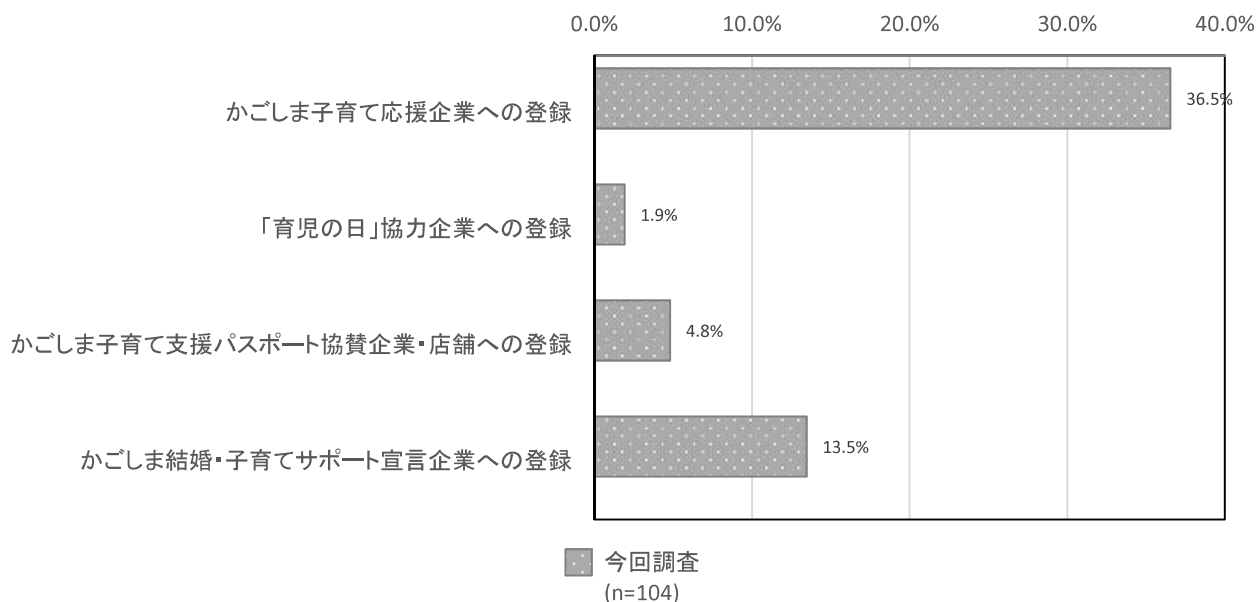
「知っている」

鹿児島県が企業と協力して実施している子育て支援で知っているものについては、「かごしま子育て応援企業への登録」が 39.4%で最も多く、次いで「かごしま子育て支援パスポート協賛企業・店舗への登録」が 37.5%、「かごしま結婚・子育て宣言企業への登録」が 19.2%、「「育児の日」協力企業への登録」が 13.5%の順となっている。



「取り組んでいる」

鹿児島県が企業と協力して実施している子育て支援に既に取り組んでいるものについては、「かごしま子育て応援企業への登録」が 36.5%で最も多く、次いで「かごしま結婚・子育てサポート宣言企業への登録」が 13.5%、「かごしま子育て支援パスポート協賛企業・店舗への登録」が 4.8%、「育児の日」協賛企業への登録」が 1.9%の順となっている。



問 2 4 行政に期待する子育て支援についてお答えください。(〇はいくつでも)

行政に期待する子育て支援については、「子育て支援策に要する費用負担に対する支援」が 69.2%で最も多く、次いで「企業の人事・福利厚生担当者向けのセミナーや講習会の開催」が 31.7%、「企業の管理職向けの子育て支援に関する研修会の開催」が 22.1%となっている。

